

上川浮島風景林

上川中部森林管理署

【上川浮島風景林の特徴】

上川浮島風景林は、北海道北部の国道273号沿いに位置し、道北地方と道東地方の接点に広がる「浮島湿原」とその周辺部からなる景勝地です。

浮島湿原は、標高約870mの溶岩台地上に形成された山地高層湿原で、面積は約22ha、周囲約3kmに及びます。湿原内には大小70余りの沼が点在し、最も深い「東ノ沼」は約2.5mの深さがあります。

山地高層湿原は、冷涼な気候と緩やかな地形により、枯れた植物が十分に分解されないまま堆積し、厚い泥炭層が形成されることで生まれます。湿原内には、泥炭が浮かんでできた「浮島」が見られる沼もあり、独特の景観を生み出しています。

【気候等と植生・野生生物】

標高が高いため冷涼な気候で、湿原にはエゾヒツジグサなどの水生植物、モウセンゴケなどの湿性植物、エゾイソツツジやチングルマなどの高山植物が生育しています。また、沼にはエゾサンショウウオが生息し、多くの野鳥が飛来しています。



エゾイソツツジ

湿原周辺にはアカエゾマツを主体とした亜寒帯林が広がり、多様な動植物の生息・生育環境となっています。豊かな自然が織りなす美しい景観を楽しむことから、毎年多くの人々が訪れています。

【楽しみ方】

面積約22haの湿原には、大小70余りの沼があり、浮島が点在しています。湿原周辺は開けた場所が多く、沼を巡る木道からは野鳥などの動植物を容易に観察できるほか、美しい自然景観や高層湿原ならではの特異な景観を楽しむことができます。



浮島湿原

《アクセス》

「浮島湿原」入口の駐車場は、国道273号線の「浮島トンネル」上川町側入口手前から、国道右側の旧道を約2.5km進んだ場所にあります。駐車場から浮島湿原までは、遊歩道を徒歩で約30分です。なお、駐車場に設置されているトイレは、6月上旬から9月下旬まで利用できます。



《アイヌ語の由来》

上川（カミカワ）

アイヌ語の「ペニウクルコタン（上川・の・人の・土地）」に由来するとされ、上川盆地のアイヌ語からきています。